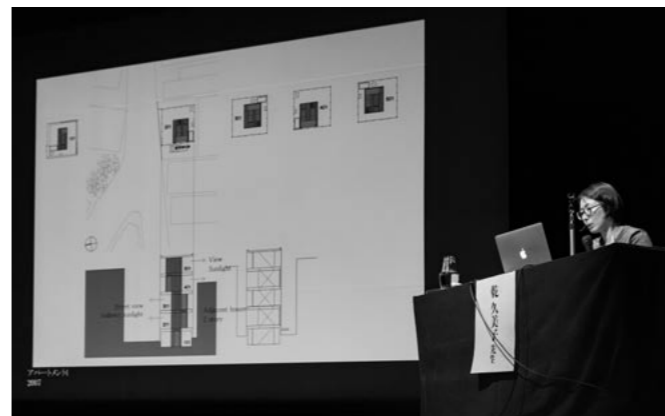


日建連建築セミナー開催報告

小さな風景から、自発的に使いこなす空間

日建連は、去る十月十二日に「日建連建築セミナー」を東京都中央区の東京証券会館ホールで開催した。講師には建築家の乾久美子氏をお招きし、「小さな風景から」というテーマでご講演いただいた。



上/講演の様子。スクリーンの映像は「七ヶ浜町立七ヶ浜中学校」(2015年)。下/セミナーの後半では日建連建築設計委員長を務める河野晴彦氏(左)が加わり対談が行われた。



プランの単純さを求めて

乾氏は「株式会社日比谷花壇 日比谷公園店(フラワーショップH)」(第五三回BCS賞、二〇一〇年竣工)をはじめ、住宅から公共施設まで幅広く手掛けている。各階で階段コアの位置を変化させた「アパートメントI」(二〇〇七年竣工)や、小さいながらも窓に広がる風景と空間の広がりを感じることができる「スモールハウスH」(二〇〇九年竣工)、進行中の最新プロジェクト「厳島港宮島口地区旅客ターミナル」などを紹介。単純明快なプランの形式を追求することで、建築の楽しさを実現しようとしていると述べた。

使う人が自発的に空間を使いこなす

「しかし、そのように形式を追求した建築は、ある意味で抽象的な思考からつくられているのではないかと乾氏。そこで、今一度どのような空間や雰囲気をつくりたいのか考え直すため、東京藝術大学の学生たちと魅力的に感じた小さな

な風景を分類、分析して『小さな風景からの学び』という一冊の本にまとめた。「リサーチで集めた風景は、その場所を使う人が自発的に空間を使いこなした結果として、人の活動の痕跡が現れたものでした。使う人が自発的に使いこなすことを促す建築をつくるのが大切なのではないかと思いました」と述べた。その後、リサーチを元に「ハウスM」(二〇一六年竣工)の設計に取り組んだ。傾斜するスラブを積み重ねること、ある不便さを生むことになるのだが、その不便さを解消しようと、使う人が自発的に次なる手段を考えられることができるような建築とした。その試みにより、リサーチした小さな風景と同様の心地良い空間や雰囲気を実現している。日建連建築設計委員会の河野晴彦委員長が加わった対談では、乾氏の所員時代の話や独立当初の苦労話、設計時の思考の仕方などについて話題が広がった。最後に、「建築の形の明確さと、そこで発生する経験の楽しさや豊かさをこれから大切にして、建築をつくっていききたい」と述べてセミナーを締めくくった。

二〇一六年度 V E等施工改善事例 発表会」を開催

日建連建築制度委員会は十一月十四日、東京都千代田区の連合会館で「二〇一六年度V E等施工改善事例発表会」を開催した。

冒頭、日建連の坂山修平専務理事(建築本部担当)が「日建連では現在、建築の生産性を測定する数値目標の検討と生産性向上のシナリオの作成を行っている」と述べた。さらに、「ハード・ソフト技術の深化と裾野の拡大、BIMやIoTなど先端のICT技術の生産性への活用、魅力ある建築生産の場づくりの三つを柱とするシナリオを平成二十八年度中に作成すべく努力している。これらを実現して生産性向上に向けてさまざまな努力をすることが建設業界の魅力を高め、さらに多くの優秀な人材に来ていただける」との考えを示した。

続いて東洋大学理工学部の浦江真人教授の「建設業界の担い手確保、人材育成について」と題した講演の後、契約部会技術提案制度専門部



熱心に話を聞く参加者たち

当日発表された事例の一覧

免震装置上部基礎のサイトPCa化による施工改善	熊谷組
立体的な曲面を持つRC構造物の施工事例	大林組
繁華街におけるCW取付施工の品質と安全確保	清水建設
モックアップ作成によるアール形状梁の組立て精度確保	日本国土開発
プレキャストで設計された換気塔の工期短縮	大成建設
急傾斜地での高層マンション施工の合理化	東急建設
物流倉庫における生産性向上の取組み	戸田建設
アリーナ屋根鉄骨の組立方法の改善と段床のPCa化による工期短縮	鴻池組
屋上防水層撤去時における下層階への漏水センサーの設置	共立建設

会構成会社から集まった一七事例のうち、九事例の発表があった。発表会には会員企業の技術者のほか、行政関係者、不動産会社等計二七〇名が参加し、参加者たちは、紹介される最前線の現場での生産性の向上への取組み事例や現場の環境改善に関する事例などを熱心に聞き入りメモをとっていた。この「V E等施工改善事例発表会」は、V E事例だけでなく、施工改善事例や研究開発成果など会員企業の技術力向上とこれらの情報を発信する場として毎年実施しているもので、残りの事例は、来年二月に大阪(九日)、福岡(二十四日)で発表される。